

2018-2019年 百日咳の発生状況-長野県（2019年10月6日現在）

2019年(令和元年)10月9日

長野県健康福祉部保健・疾病対策課

1 百日咳とは

百日咳は、百日咳菌(*Bordetella pertussis*)を原因とする急性気道感染症で、患者の咳やくしゃみなどのしぶきで感染します(飛まつ感染)。

約7~10日の潜伏期の後、風邪様症状で始まり、徐々に咳が強くなっていきます(カタル期:約2週間)。その後、短い咳が連続的に起こり、咳の最後に大きく息を吸い込み、痰を出しておさまるといった症状を繰り返します(痙咳期:約2~3週間)。激しい咳は徐々におさまりますが、時折、発作性の咳がみられます(回復期:2~3週間)。

乳児の場合、無呼吸発作など重篤になることがあり、生後6か月未満では死に至る可能性もある危険の高い疾患です。一方、成人では咳は長期間続きますが、比較的軽い症状で経過することが多く、受診・診断が遅れることがあります。治療は、医師の指示で抗菌薬を投与します。

百日咳ワクチンを含む三種・四種混合ワクチン等の接種により発生数は少なかったものの、近年は予防接種の効果が減衰した小児や成人の発病がみられるようになってきています。

2 百日咳の患者届出数推移

百日咳は感染症法の5類に分類され、2017年12月までは定点把握対象疾病でしたが、2018年1月からは検査診断(検査診断例との疫学的リンクが明らかな臨床診断例を含む)をした全ての医師は7日以内に届出を行うこととなっています。

2018年は83例、2019年は40週(9/30-10/6)までで205例の届出がありました。週別の届出数は、2019年23週(6月中旬)頃までは1週間当たり0-5例程度で推移していましたが、その後徐々に増加傾向を示しています(図1)。

年齢別では、5-9歳の割合が最も多く、次いで10-14歳、40歳代、1-4歳の順となっています(図2)。0歳児の届出はこれまで14例あり、うち8例は入院治療を受けています。

全数届出が始まってから2年弱であり、実態把握のためには今後も継続的な調査が必要です。

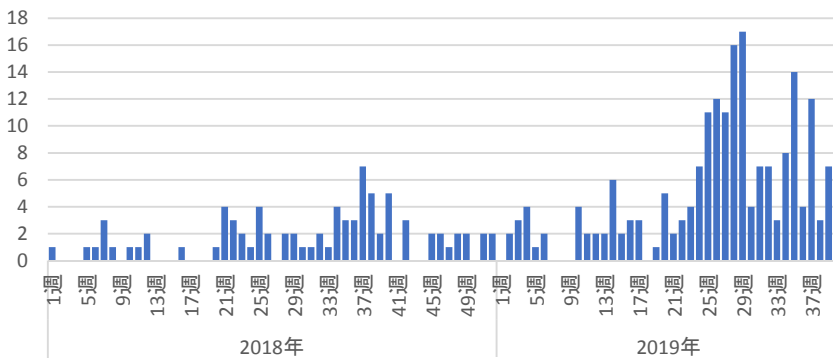


図1 2018-2019年週別届出状況(長野県)

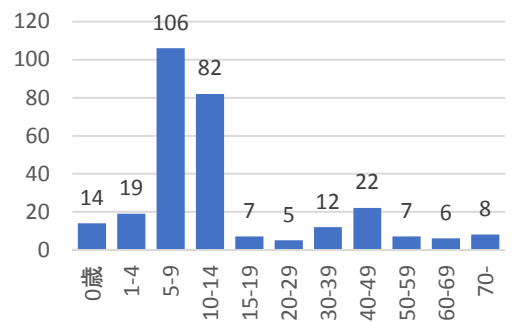


図2 2018-2019年年齢群別届出状況(長野県)

** 流行拡大を防ぐために **

- ★ 予防接種が有効です。定期予防接種の四種混合ワクチンとして、生後3か月から90か月の間に4回接種します。対象となる月齢になったら、確実に接種しましょう
- ★ 手洗いや「咳エチケット」に努めましょう
- ★ 重症化しやすい赤ちゃんを守るため、予防接種をしていない赤ちゃんのいる家庭は、家族みんなが感染しないように留意しましょう
- ★ 小中学校や保育園・幼稚園で感染が拡大すると、赤ちゃんのいる家庭へ持ち込まれる可能性が高くなります。地域で赤ちゃんを守るため、長引く咳がある場合は早めに医療機関を受診して確実な診断・治療を受けましょう